

## 三重県交通安全研修センターだより



～平成 18 年中 三重県の交通死者 167 人～



4年連続で200人を下回りましたが、前年と比べ4人増加となりました。特に、歩行中の高齢者が巻き込まれる事故が多発し、167人中70人(41.9%)となっています。又、四輪乗車中の死者71人中シートベルト非着用者は40人(56.3%)と依然として多く、その中で着用していれば助かったと推定される死者は26人に上ります。さらに、飲酒運転による交通死亡事故も後を絶たず、前年より1件増加の24件発生しています。平成14年6月の罰則引き上げに伴い、翌年は大幅に減少したものの、その後は再び増加に転じると言う残念な結果です。全国的には、平成18年8月に起きた福岡市の三児死亡事故後、飲酒運転の取り締まり強化や批判の高まりが要因となり、統計が残る平成2年以降最小の611件という結果でした。



### ☆セーフティ プラザ みえ☆

三重県交通安全研修センターは、幼児から高齢者まで、実際に体験していただくことにより、交通安全を楽しく学べる場所です。また、対象者に合わせた団体研修・出前研修も行っていますので、お気軽にお問い合わせ下さい！

※開館時間:午前9:30～午後4:30

※休館日:土曜・祝日・年末年始(12/29～1/3)

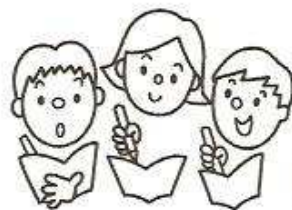
※所在地:〒514-8518 三重県津市垂水 2566

(三重県運転免許センター4階)

※(TEL):059-224-7721

※(FAX):059-224-7641

※(URL):<http://www.safetyplaza-mie.com>



## 「今までに飲酒運転をしたことがありますか？」 - 「はい…」

こう回答するドライバーに潜む問題・・・見過ごしていませんか？

皆さんは憶えていますか？

-1999年11月、東名高速道路で乗用車が飲酒運転の大型トラックに追突され炎上、幼い姉妹が焼死-逮捕されたドライバーは飲酒運転を常習化しており、事故当時もまっすぐに立ってられないほどだった-

この事故をきっかけに、危険運転致死傷罪が新設され、その後も飲酒運転に係わる罰則が厳しくなったにもかかわらず、その検挙者は後を絶ちません。

今回は、飲酒運転が減らない原因の一つと考えられている“アルコール依存症”を取り上げてみたいと思います。

### アルコール依存症

(従来の言い方は慢性アルコール中毒やアル中) アルコールを長く飲酒し、習慣性が生じ、コントロールのきかない飲み方となり、心身や社会問題が生じる病気。アルコールが切れると、睡眠障害や手・胴体の震え、寝汗、心臓の興奮状態、更に情緒不安定となり、不安に苛まれたり、幻覚が見える場合もある。



※アルコール依存症は、大量飲酒や常習飲酒者の問題と思われがちですが、飲酒量や飲酒の仕方では決められるものではありません。その為、日常生活では何の問題もなく過ごしている人々の中に、多くの依存者が潜んでいると考えられ、現在、アルコール依存症患者は約240万人・予備軍は1500万人も存在すると言われています。

こうしたアルコール依存症のドライバーの大多数は、飲酒運転経験者であり、法改正後も飲酒運転を継続している人が多く、まさに、「飲酒運転はアルコール依存症の問題行動の一つ」と言えるのです。そして、様々な問題を引き起こしながら、本人は病的な状態に気付かない為、早期治療が非常に難しく、断酒をしない限り、問題行動は繰り返され重篤化、よって、飲酒運転も繰り返されるのです。

※アルコール依存症は特別な一部の人々を指すものではなく、誰もがなり得る危険をもっています。そして、自分勝手になるものではなく、「完全な疾病」なのです。個人レベルの問題ではなく、家族や職場、地域レベルで早期発見・早期治療に協力する必要があります。

#### ☆こんな方は危険信号! ☆

- ①飲みたいと思ってもつい飲んでしまう
- ②大酒のみと非難されたことがある
- ③飲み出すと止まらない
- ④朝から飲むことがある
- ⑤お酒を飲まないと思えない
- ⑥飲酒を批判されるとムっとする
- ⑦お酒を減らそうとしたことがある

